|  |  |
| --- | --- |
| 会議の結果 | |
| 件　　　名 | 令和５年度田辺市社会教育委員会議　第６回定例会 |
| 日　　　時 | 令和６年３月27日（水曜日）　午前10時15分～12時00分 |
| 場　　　所 | 田辺市中部公民館　大集会室 |
|  | ○社会教育委員  出席者10名：　尾崎委員、加藤委員、桐本委員、小山委員、坂本委員、砂野委員、  中根委員、西川委員、松場委員、宮本委員、柳川委員  欠席者３名：　九鬼委員、久保委員、砂野委員  ○事務局７名：　佐武教育長、前川教育次長、那須生涯学習課長、太田生涯学習課参事、  下岡生涯学習推進係長、小林公民館係主査、小出生涯学習推進係主査 |

１．開会　教育長挨拶

２．議長挨拶

３．．説明事項・報告事項

（１）第19回市民スポレク祭実施結果について

（２）第47回市民体育祭実施結果について

（３）第23回和歌山県市町村対抗ジュニア駅伝競走大会の結果

（４）令和５年度田辺市スポーツ賞表彰者名簿について

（５）南方熊楠顕彰館の行事予定について

以上の項目について、事務局より一括して説明及び報告を行った。

【質疑応答・主な意見】

　　特になし。

４．協議

（１）人材育成事業企画部会について

第７回人材育成事業企画部会において確認した一般公開講座アンケート集計結果、令和６年度　人材育成事業について、事務局より説明を行い、協議を行った。

中学校・高校出張講座については、次年度も引き続き実施する方向性を確認したほか、中学校出張講座については、年度内の臨時校長会において周知を行うこととした。

【質疑応答・主な意見】

　　　　議長：先日の人材育成事業企画部会では、中学校・高校出張講座を次年度も引き続き実施するという方向で話が出ていますが、その方向でよろしいでしょうか。

　　　　一同：異議なし。

　　　　議長：それでは、次年度も引き続き中学校・高校出張講座を実施していくということでよろしくお願いします。事業の概要について、これまでのパターンでは、具体的な講師名を挙げて各学校の先生方に提案していたように思いますが、資料を見る限り、次年度は各学校に広く募集をかけておいて、各学校からこのような話をしてもらえる講師をお願いできませんかと要望を受ける形式になるかと思います。その点はいかがでしょうか。

　　　副議長：この資料は、校長会で説明するための資料でしょうか。

　　　事務局：校長会で提示することを想定しております。

　　　副議長：校長会がどのような場なのかイメージが掴めていないのですが、事務局が校長会に出席して、この資料で説明してくれるというイメージでよいでしょうか。

　　　事務局：主に２つのパターンがあり、校長会の事務局（学校教育課）に資料を提供し、校長会事務局から資料配布・説明をいただく形式と、個別に説明が必要なものについては、それぞれの担当職員が校長会に出席し、資料配布・説明をさせていただく形式があります。今回の件について、担当職員が出席しない場合、本日、会議資料としてご確認いただいているもの以外に、趣旨がわかるような案内文など補足するための資料が必要になるかと考えています。

　　　副議長：直接説明する際の資料であれば問題ないと思いますが、書類のみ渡すとなった場合には伝わりにくい気がしています。どうすれば伝わりやすくなるか悩んでいるのですが、裏面の実績一覧に各講師の講演タイトルが入っていれば、どのような話をしたのか想像することができるかと思いました。講師名だけ並んでいても、この資料を見た校長先生方に申し込んでみようという気になってもらえるのか疑問に思います。写真を入れたほうがいいということは事前に事務局に伝えていて、その点では雰囲気が伝わるようになったと思いますが、肝心の内容の部分が資料からは伝わりにくいかと思いました。

　　　Ａ委員：校長会で説明いただけるということで、資料の裏面を見ましたら、令和４年と令和５年で私が校長のときにさせてもらった中芳養と東陽の事例がありました。中芳養のときは、梅のキャリア教育の取組の梅ジャムを作って販売する、そのまとめという形でお話を聞かせてもらって、東陽では、立志式に向けて取り組むきっかけづくりとして話を聞かせてもらいました。子供たちの感想を見ても響くものがあったようで、大変よかったと感じていますが、そういった部分は説明だけでは伝わりづらい部分もあると思います。私も校長会の一員としてネットワークはありますので、校長会以降も、いろいろな校長先生によかったことやメリットを共有していけたらと考えています。なかなかイメージもつかない部分もある中で、校長先生方が積極的に手を挙げるというのも難しいと思うので、校長会当日の補足説明もさせていただきますし、必要に応じて個別対応もできるかと思います。各中学校で、それぞれ特色のある取組をしているので、趣旨に合いそうなところがあれば声もかけていきたいと思っています。

副議長：校長会はいつ開催される予定ですか。

　　事務局：２日後に臨時校長会があり、そこで情報提供できればと考えております。そこに間に合えば、年度当初の職員会議で各学年の先生に共有してもらえるかと思いますので、今日の会議で修正も含めご意見をいただき、一定の承認をいただけるようであれば、臨時校長会で情報提供していきたいと考えております。

　　　副議長：令和５年度の反省として、早めに情報をもらえていたら検討できたという話も学校からあったので、できるだけ早く周知したいという気持ちがありますが、このタイミングであれば間に合うという認識でよいですか。

　　　事務局：市立中学校に限りますが、そのように考えています。高校には別途周知する必要があります。

　　　　議長：講演タイトルを追記することに加えて、講師のプロフィールを追記いただきたいと考えています。講師のプロフィールがあれば、講演タイトルと合わせて見ることで、講師がどのような人か各学校の先生方にも伝わりやすいかと思いますが、可能でしょうか。

　　　事務局：可能な限りそのように対応したいと思います。

　　　　議長：行き過ぎた心配になるかもしれませんが、複数校になった場合に対応は可能でしょうか。

　　　事務局：もし、対応が難しい程の要望があった場合には、実施年度を調整するなど融通を利かせることは可能だと思います。

　　　　議長：わかりました。中学校出張講座に関しては、校長会で周知させていただいて、各学校からの反応待ちということで、講座内容の詳細については、今後ということでよろしいでしょうか。

　　　　一同：異議なし。

　　　　議長：では、高校出張講座についてはいかがでしょうか。

　　　副議長：高校の受入体制がどれだけあるか、先生のサポートがどれだけ得られるかによる部分が大きいかと思います。

　　　事務局：どの学校も４月１日から２日にかけて職員会議を開いて、そのときにこういう案内があるので検討してくださいということがあれば、その年度の行事のどこかに含めようかとなるんですが、その職員会議で年度内のスケジュールが固まってしまうと、その後に話を持って行っても難しいということになるように思います。高校も同様だと思うので、できるだけ早く事前に相談しておいた方が心づもりしてもらえるかと思います。田辺高校に関しては、次年度も同じ校長先生で、昨年度のこともわかってくれていると思うので、早めに話を持っていけば受け入れてもらえるのではないかと考えています。

　　　　議長：中学校、高校ともに次回の定例会で状況を確認させていただきたいと思います。続いて、一般公開講座に移りたいと思いますが、現時点で案があれば提案いただければと思います。

　　　Ｂ委員：方向性というほど具体的なものではありませんが、一般公開講座に参加された方の感想を見ていると、公民館の方が出席されていて、そこで話ができてよかったとか、具体的な話をもっと聞きたかったとか、時間が足りなかったとか、そういった意見が出ているので、そういったことを頭に置きながら、次のことを考えないといけないのかなと思いました。前回の部会に出席できなかったので、あまり流れがわかっていませんが、いただいた意見が次の講座で生かされるようなことを考えないといけないと思いました。

　　　　議長：今年度最後の定例会となりますので、各委員から今年度の感想と、次年度の一般公開講座でやりたいことがあれば、併せてご発言いただきたいと思います。

　　　Ｃ委員：今年度の振り返りをさせていただくと、今までのいろいろな講座を踏まえて、すごく研ぎ澄まされたというか、いい講座ができたように思っています。先日の一般公開講座も所用があって途中で退席させていただいたんですが、いい話を聞かせてもらえたと思いました。参加者アンケートにもあったように南方熊楠と社会教育の組み合わせには驚きました。スクリーンに映っていたイラストの写真も撮らせてもらいましたが、いろいろなことがつながっているということを感じました。熊楠は、ＮＨＫドラマに出てきたことがきっかけで個人的に興味が湧いていたところだったので、興味深く話を聞かせていただきました。参加者アンケートを見ていると、いろんな想いを持った人が聞きに来てくれていて、そういった講座をこの場で企画して実施ができるというのは貴重なことだと感じています。個人的なところですが、私も野球部のマネージャーだったので、田辺高校の甲子園出場はとても嬉しいニュースでした。いろいろなことが重なり、甲子園で直接応援することはできませんでしたが、午後から休暇をもらって、亡き先輩にもらったネクタイを持って一緒に観戦しました。千葉県や徳島県にいる友達からも連絡をもらって、同級生のつながりを感じて、引き戻されたような感覚でした。また、来年も学校へ出向いていろいろな講座をして、私たちも学校の現場や中学校・高校の今の状態を知るということも大切なことなので、引き続きやっていきたいと思っています。

　　Ｄ委員：社会教育委員をやるよう前任の方からお話をいただいて、１年間させていただきましたが、まだ全然掴めていませんでした。これまでも小学校や中学校に行っていましたが、市民カレッジをはじめ、社会教育委員としていろいろなことを経験する中で、子供の見守りや遊びの中で携わっているだけだったなと気がついて、子供たちが将来の人材なんだということをやっと結び付けられるようになってきました。自分はいつも公民館に行っているけど、何かどうにかならないかという想いを持っていて、公民館のしあさってさんを呼んだ一般公開講座で気づきをもらえたと感じています。自分自身、年度末に向けて中学校とのかかわりもありましたが、とても広がりを持つことができました。社会教育は難しいなと思いながらも、日々いろんな人と会話して、子供たちを見守りながら、大塔にどんなすごい仕事をしている人を呼べるかなと考えています。学校へ来て、子供たちに話をしてもらいたいなと考えていて、日々、学校へ行きながら、地域を見ながら、どこかにそんなつながりがないかと探しています。田辺高校は本当にすごかった。私の息子も田辺高校で野球をしていたので、大変喜びました。マスターズの方にも参加していて、去年、マスターズで甲子園に行ったので、「これで田辺高校も甲子園に行けたらすごいよね。」と話をしていたら本当に行くことが決まって、家族総出で寄付をさせてもらいました。学校に寄付をするだけではないですが、自分はここの学校を卒業したんだという想いで、みなさん援助したんだろうなというのを思いました。私は有田川町の出身で、高校も有田中央高校の分校に通っていましたが、耐久高校が甲子園に出るとなったときには、有田に縁のある人間としてとても嬉しかったです。多くの人が耐久高校に対して援助をしているという話の中で、濱口梧陵さんの話も聞きまして、濱口さんのところは千葉県で醤油を作っていて、今のヤマサ醬油なんですが、耐久高校に多額の寄付をしたという話を聞いたことがあります。それだけ、地元に対する想いがあるということで、他にも廣岡の社長さんや松源の社長さんも耐久高校出身で出資しているという話も聞いて、田辺高校や神島高校はどうなんだろうと思って、きっと探せばすごい人材がいて、子供たちに話をしてくれる人が大勢いるんじゃないかという期待をしています。大塔は小さい村ですが、いろんな人との関わりで何かつながるものがあると思っていて、そういうつながりの中で話をしてもらえる人と巡り会えたらいいなと思っています。

　　　Ｅ委員：コロナの前後挟み、いろいろとやってきたなというところで、各公民館で地域シンポジウムをやって、今回も公民館のしあさってさんを呼んで、外部からの声も取り入れられて、私の中では一通りやったなという充実感を感じています。そうした中で、敢えて言うならば、外からの声はいいな、強いなと思っています。その辺も、別プロジェクトで副議長が一生懸命取り組んでいらっしゃると思うんですが、自分たちでは気付かないところを気付かせてくれるというのが、非常に大事だなということと、今回の講演会のように講師と聞く側に分かれるのではなく、混ざるようなそういう場がいいなと思っています。会社経営の中で勉強した部分ですが、非常に多様性が進んで、情報の速さも年々早くなっていて、私も企業の責任者ですが、責任者だけの裁量だけではついていけない状況になっているので、なるべくボトムアップ、チャンネルを増やしなさいといろんなところで言われています。一人の人間が頭を捻ったところでできることが限られている時代なので、それよりはいろんな人の頭を捻って、いろんな意見を出しましょうという流れにしていかないと、今後、やりにくいんだろうなと思っているので、そういうボトムアップ的な部分を評価していけたら、もっともっとよくなってくるんじゃないかと思った１年間でした。

　　　Ａ委員：教育長の挨拶で片山哲さんの話が出ましたが、実は私も田辺第一小学校の出身で、ちょうどこの場所の２階に講堂があって、１階が職員室と会議室があったんですが、その会議室に片山哲さんの書が飾られていて、内閣総理大臣が自分の通う小学校の出身者だと思うと、子供ながら背筋の伸びるような思いを感じながら掃除をした記憶があって、教育長の話を聞いて、ふとその会議室の様子が目に浮かびました。そういう愛校心というか、誇りというか、自分の母校にこんなすごい人が、田辺市にこんなすごい人がいたんだということが、子供心にそのとき感じたことを思い出しました。田辺にはいろんな偉人がいて、植芝盛平さんもそうですし、伝説ですが弁慶さんもあって、田辺第一小学校に通っているころ、同じような伝説が残っているということで岩手県の方と文通したこともあります。当時を思い返すと、いろんなところの意味づけや価値づけについて、具体的に示してもらうことはなかったと思いますが、子供心に感じる想いがあったように思います。今、人材育成について議論していることは、やっていることの意味づけや価値づけという部分でとても重要な意味があると、中学校出張講座をさせてもらいながら感じているところで、本当にありがたいと思っています。それと、田辺高校の話もありましたが、東陽中学校のブラスバンド部も一緒になって、朝７時に田辺を出発して、ちょうど第二試合だったのでよかったんですが、第一試合だったら朝４時出発ということも聞いていたので、どうなることかと思って抽選を待ちましたが、ちょうどいい時間で、天気も良くて、本当に良かったと思いました。朝７時に見送って、学校に戻ってきたのが午後８時頃で、疲れて帰ってきているのかと思って子供たちの顔を見たら、みんな大満足の表情ですごく充実した顔をしていました。なかなか経験できないところで、大人と子供と一緒になって、世代を超えて応援したということは、子供たちにとって忘れられない思い出を作ってもらったと思っていて、田辺高校の校長先生にも、教育委員会にもお礼を言いたいという想いがあります。それほど、子供たちにとっては忘れられない思い出になったと思いますし、そういったことも田辺市に対する愛着にもつながっていくんだなということを感じました。

　　　事務局：補足すると、田辺高校のブラスバンド部が１年生で20数名しかいないということで、西嶋校長先生が教育委員会へ来て、東陽、明洋、高雄のブラスバンド部に応援をお願いできないかと相談がありました。当然、喜んで協力させてもらい、三校合わせて86名、そこに田辺高校の20数名を合わせて、110名くらいのブラスバンドの応援団になりました。だから、テレビで見ていても、音がしっかり聞こえたと思います。今、東陽のことが話にありましたが、明洋の生徒も高雄の生徒も本当に行ってきてよかったと、中学生であのような場に参加できたということがものすごく嬉しかったし、また高校でもやりたいという生徒の話を聞いて、やっぱり若いときにいろんな経験をさせるということは改めて大事だということを感じさせられました。

　　　Ｆ委員：私も長くさせていただいているんですが、社会教育委員というのは慣れることがないというか、奥深くて難しくて、でもすごくためになって、入ってから本当に勉強させていただくことが多々あって、刺激もすごくいただいて、本業の商売にも非常に糧となっているといつも感じています。講座に関しては、先日の人材育成事業企画部会でも出ていましたが、公民館のしあさっての西山さんと大里さんとのかかわりは今後も何かしらの形で持ってもらえたらと考えています。以前もお伝えしましたが、学社融合推進協議会でかかわっている公民館主事さんが、最近元気がなさそうだったんですが、一般公開講座に参加された後にお会いしたとき、「田辺のしあさってすごくよかったです。自分たちが楽しんだらいいんですよね。」と言われていたのがすごく嬉しくて、その主事さんのようにヒントを得た方もたくさんいらっしゃったのかなと思うと、今後もこういった講座を開いていきたいと思いました。西山さんと大里さんはなかなか特殊というか、すごく面白くて、先日の講座でも熊楠さんと社会教育のつながりについてお話をされていたとき、はじめの方が本当に難しくて正解なのかなと思ったんですが、最後まで聞いていくとなるほどそうつながるのかと、そこまでひも解く西山さんの力ってすごいなと思うと同時に、こういったことで掘り下げて、地域を知って広めていくことが大事なんだと改めて思いました。市長も植芝さんとつなげられないかと言われていましたが、そういった方向性を学べたかなと感じました。そういった学びを得られたことは大きかったので、引き続きつながりを持っていけたらいいんじゃないかなと思いました。田辺高校への出張講座はリベンジしていただいて、中学校に関しては本当にＡ委員にはお世話になって、東陽中でも広げていただきましたし、本当にこの会に校長先生がいらっしゃるというのは心強いなといつも感じています。教育長、次長からも、今期のうちに周知をというご提案もいただいて、本当に心強いというか、協力者が増えてきたように、最近特に感じています。私もいろんなところに顔を出していますが、それぞれの機関がつながり、その輪を広げていくことで地域が活性化していったらと夢を見ていて、今後もそういった活動を自分なりに皆さんと一緒に頑張っていきたいと考えていますので、今後ともよろしくお願いします。

　　　Ｇ委員：１年間ありがとうございました。二つありまして、一つは講座関係で、大里さんと西山さんの話なんですが、最初の企画段階からどのようにベクトルを合わせようかみたいな話をずっとやってきた立場としては、最後、社会教育と熊楠でまとめてくるところはさすがだなと感じました。今回の趣旨そのものが、ザ・社会教育にしないでおこうというところからスタートしましたが、「熊楠と社会教育」と謳わずともあのような切り口を見せることができるとなると、熊楠を通じて社会教育じゃない人にもアプローチしてもらえる、その幅の広さが出るということにおいてはとてもいいと思いました。だからこそ、市長が言う植芝盛平翁にそういった要素があったのかは一度調べてみたいと思いました。物事を正面から捉えることも大切ですが、違う切り口で、角度を変えたアプローチをするということは、このご時世、ウィング（支持基盤）を広げるためには必要なことかと思います。そういう意味では、あの講座はよかったという評価とともに、一方で、テクニカルな部分でストレートに公民館をどうしたらいいか、どうやったら人が集まるか、みたいなことに対する直接的な回答にはなっていなくて、要素はたくさんあったと思いますが、テクニカルな話はしなかったので、それを求めて参加した人にとっては不満の残る講座で、厳しい言い方をすれば、正解が欲しいという人にとっては、何コレという話だったと思いますし、正解は分からないけれども、何か違ったアプローチをしないといけないなともやもやしていた人にとっては、少し考え方の整理につながったのかなと思っていて、もし来年度もやるなら、理念的なものか、テクニカルなものか、どちらに重きを置くのか一旦決めておいた方がいいと思います。アンケートではこうなっていますが、翌日の主事会でストレートな話もされているんじゃないかと思うので、そういったダブルヘッダーがあればカバーできる部分もあって、とてもいいと思いました。もう一つが、以前から話をさせてもらっている芳養駅活性化プロジェクトの件で、ＪＲとは話が進んでいるんですが、地元に全然行けていないらしく、彼は４月から４年生になるので、就職活動をどうするのかという問題もあるんですが、心はまだ折れていないみたいなので、打ち合わせをしたいと思っているんですが、なかなかできていない状況です。今年は実現しませんでしたが、そういった状況ですので、来年度のネタとして置いていただければ大変ありがたいと思います。

　　　Ｈ委員：先日、鳥取県に行き、どこを通っても街並みが田辺、和歌山と一緒だなと感じつつ、帰る間際に鳥取砂丘を見に行って、初めて砂丘を見たんですが、その凄さにとても驚いてしまいました。何が言いたいかというと、今、ネット社会で人も物も企画も何もかもがネットでつながる時代ですが、自然だけはそこに行かないとないということで、田辺にはそれがあると思っています。天神崎がウユニ塩湖みたいということで話題になっていますが、江川の河口も同じように見えるところがあり、植芝盛平翁の銅像があるところも夕陽がきれいに見えます。当然、熊野古道の自然もありますが、そうした自然は田辺にしかないものなんですが、田辺の人はその魅力にどこまで気付いているんだろうかと疑問に思っています。以前、夫から「田辺は自然“しか”ないと思っていたけど、自然“が”あることに気付いた」という言葉を聞いて、自分もそのことに気付かされました。最近、あちこちで名前を目にする土永知子さんのことが気になっていて、一般公開講座では、そういう人たちから、田辺にしかないものの良さや価値を伝えていただいて、大人が改めて知るような機会になればいいんじゃないかなと思いました。

　　　Ｂ委員：こちらに寄せてもらって、皆さんで地域づくりや人づくりのことを考えて、いろいろ企画する中で、自分自身が成長するというか、いろんな方の意見を自分の中に取り込ませてもらえるので、大変いいなと思っています。来年の一般公開講座ですが、私の知っている範囲の今までの講座では、教えてくれる方がいて、教わる立場の方がいるという形式でしたが、今回、参加されていた育友会のメンバーのお母さんと公民館長さんが一緒に話をして、公民館をもっと使ってくれたらいいよと言ってもらえてホッとしたということが感想にあったと思います。そうしたことも含めて、公の立場の方と民間の方が、一つの場で一つのことについて話ができたということが、感想の中に複数あったように思います。これは、今までと違う、一つ進んだという感じがして、来年も一般公開講座が、みんなが一緒になって話する場になって、具体的に物事が進んでいく、そういうものが含まれるような講座ができればいいと思いました。

　　　副議長：先ほどのＧ委員と重なる部分もありますが、アンケートの感想を見ていると、答えを求めすぎかなと思いました。我々も含めてみんな横着なので、ついつい自分で考えるより答えを求めてしまうんですが、そうではなく自分たちで考えないといけないということのヒントを先日の講座でもらえたんじゃないでしょうか。前の人材育成事業企画部会でも言いましたが、大里さんの具体的な事例をもうちょっと聞きたかったなと思っています。あのビジュアルと明るさで、非常に軽やかに現場の苦労を語ってもらえるというのは、すごく聞きやすくて、面白かったです。そういうのをやりたいなと思いながら、その後、主事の皆さんで呼んでみようみたいな話はあるんでしょうか。

　　　事務局：その後、オンラインでミーティングさせていただいて、来年度にはなりますが、引き続きお付き合いさせていただければと考えていまして、具体的には決まっていませんが、現在イメージしているのは、各公民館もしくはいくつかの公民館をピックアップして、事業を構築し、企画書の段階から叩いてもらうということができればいいなと思っています。我々も公民館で事業をやりながら、いろいろな方に協力いただく機会はあるんですが、叩いてもらうというか指摘してもらう機会というのがないなと思っていて、そういう形で公民館のしあさってさんとつながりたいということと、もう一つ公民館の目的としては、田辺の公民館をアピールする機会にもなるかなということで、東京大学の牧野先生や沖縄県をはじめ、活発に活動されている全国の公民館ともつないでもらえるんじゃないかという期待も込めて、今後、公民館として計画していきたいと考えております。

　　　副議長：こちらに来てもらえる機会があるようなら、ダブルヘッダーのような形で、こちらの企画、先日聞けなかった具体的な話を聞く企画を一般公開講座でやりたいなと思っています。先ほどから、皆さんの話を聞きながら、いかに人材を作るか、地元に残る若い人を作るかというところの切り口として「働く」という話でこれまで進めていましたが、田辺出身で他の所で活躍している人の話を聞いたらどうなのかとか、田辺高校の甲子園出場なんかは、まさにみんなが地域に誇りを持った機会になったし、Ａ委員が言うように中学生や高校生にとっても忘れられない思い出ができた、それって多分地元への誇りにつながるんだろうなと思うと、郷土愛をどう育てるかという切り口はいくらでもあるなとそんなことを思いながら、「働く」という角度で考えるとあまり面白くないなと思ってしまいました。柔らかく楽しいテーマで市民も若い子も地元に誇りを持てる企画って何かできないかと思いました。中学校・高校への出張講座は引き続きやっていって、一般公開講座をどのように組み立てるのかというのは、今日の議論でいろんなヒントがあったように思いました。

　　　　議長：ありがとうございました。半ば無理やりマイクを回しましたが、すごくたくさんのヒントを皆さんのお話からいただいています。副議長と重なりますが、アイデンティティや郷土愛を育てるとか、先駆け的なことを取り入れていくとか、角度を変えたアプローチをするとか、チャンネルを増やすということは、ワードとして並んでいますが、これから一般公開講座を考えていく上で、何とか組み立てて、皆さんのおっしゃるような講座が展開できてたらいいなと思っています。Ｂ委員の聞く側と教える側じゃなくて、そこに分断がなくて、公の機関に入ってもらって、物事が進むようにしたいというのは、まさに今年、「田辺のしあさって」で考えたことが来年度に向かって実現していくような気がして、とてもここに参画していて良かったと思います。委員の皆さんを頼りにしていますので、どうぞ来年もよろしくお願いしたいと思います。

５．その他

（１）４月１日付人事異動に伴う事務局職員の異動について

　・令和６年４月１日付の人事異動により、異動となる事務局職員３名を紹介した。

６．閉会　副議長挨拶